

令和 7 年度

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 生活科 総合的な学習の時間

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	教科横断的な学習指導計画
第 1 学年	・身近な動植物に対して興味を示す児童が多いが、対象と深く関わるまでには至らない児童もいる。 ・植物の世話について、どのようにしたらよいか対処の仕方を知っているが、それを自発的に行動に移せる児童は限られている。 ・児童なりの気付きをもっているが、表現することが苦手な児童に対しての支援が必要である。	・意図的に繰り返し対象と関わるような場を設け、視点を与えるような助言を工夫し、児童の気付きを促していく。 ・児童の発言やつぶやき、表情から児童の気付きを見取り、適切な支援を行うようにする。 ・児童の実態に応じて、多様な表現方法を例示し、児童が取り入れることができるように支援する。	・活動時間を十分に保障し、予想や自分の思い・願いを基に学習を展開していくことで、活動を通して気付きを広げさせていくようにする。 ・植物の成長や、身近な社会、人との関わりがもてる体験活動を設定し、意欲を高めていく。 ・表現が苦手な児童には、多様な表し方を例示し、児童が取り入れやすいように支援する。また、効果的な表現方法の作品を提示したり、発表の場の設定を工夫したりする。 ・身近な材料を基に、友達と関わり合いながら、自分なりの工作ができるような活動の場を設定していく。
第 2 学年	・活動や体験を通して自分と周囲の関わりに気付き、気付いたことを様々な方法で表現する力を身に付ける必要がある。 ・個人での気付きを全体に広めたり、表現したりすることを苦手とする児童に対しての支援が必要である。	・児童の実態に応じて、多様な表現方法を例示し、児童が取り入れやすいように支援する。 ・グループで話し合いを進めていけるよう、きめ細かに支援する。 ・活動の過程で振り返りができるような場面を設定する。	・活動時間を十分に確保し自分の思いを絵や文章などを用い、工夫して表現できるようにする。 ・身の回りのおもちゃを、試行錯誤して作り、友達と一緒に遊び、手先の動きを伸ばす活動をする。 ・興味関心がもてるように児童にとって身近な教材を扱う。 ・公園で自然観察や遊具を使って遊ぶ活動をしたり、地域を探検したりする活動をする。
第 3 学年	・調べたことを集めてまとめ、伝えることはできるが、情報を整理して選ぶことが難しい児童が多い。 ・全体で共有する際に、自分の言葉で見たもの感じたものを話したり、文章に表したりすることが苦手な児童が多い。	・個人だけではなく、グループでもまとめ、表現するまでの過程を経験し、考えを交流させることで情報を整理するよさを確認する。 ・児童の実態に合わせて、話型を含めて指導をし、自分の伝えたいことが伝わるように支援する。 ・地域人材や施設の活用を積極的に学習計画に位置付	・国語科説明文の学習で、どのような情報をどのような関係で載せると伝わりやすいか、読み取ったりまとめたりする。 ・学習の中で振り返りの時間を確保し、友達の意見を聞きながら共感する場を作る。 ・特別活動での児童の司会による話し合い活動を通して

		ける。 ・調べたりまとめたりする活動に、ICT 機器（タブレット端末等）を積極的に活用する。	主体的に学級活動に参加する。
第 4 学年	・調べたことを収集し、まとめて伝える際に、必要な情報を整理したり、相手意識をもって文章を作ったりすることが難しい児童が多い。 ・全体で共有する際、見たものの感じたものを自分の言葉で文章に表すことが苦手な児童が多い。	・毎時間のめあてや活動の目的を児童が当事者意識をもって捉えられるように、児童の言葉を用いながら指導を行う。 ・ICT 機器（タブレット端末等）やノートを用いながら、児童が学習過程を振り返り、まとめられるようにする。	・国語科の要約を考える、新聞や本の帯を作る、対話、パンフレットを読む等の学習を通して情報を整理する力や説明する力を育成する。 ・社会科や理科で、様々な思考ツールを経験し、多面的・多角的に考える力を養う。
第 5 学年	・課題や疑問を自身で挙げ、見通しをもってテーマ設定をすることについて、困難な児童が多い。そのため、教師が提示・方向付けをしてしまいがちである。 ・児童は調べることにに対しては意欲的・好意的であるが、調べ学習の情報源がインターネットに偏りがちである。教師側も、関連図書等をなかなか用意できていない時がある。 ・調べたことや考えたことを聞き手に伝わりやすく表現することが苦手な児童が多い。	・資料を提示して児童の興味関心を高めたり、時事問題を紹介して身近な事柄と関連付けさせたりする。 ・必要な助言や指導をして、課題設定から発表・まとめまでの計画を児童主体で考えさせていく。 ・インターネットだけではなく、関連図書を準備したり、ゲストティーチャーによる特別授業を設定したりするなど、幅広く情報を集めて多面的・多角的に考えていけるようにする。	・様々な教科の時間を通して、調べたことや考えたことを文章にしたりスライドでまとめたりする活動、友達と伝え合ったりアドバイスを合ったりする活動を多く設定し、多様な表現の仕方や場を経験させる。 ・「米」に関わる学習については、社会科の農業の学習や家庭科の日本の伝統的な食事の学習などと関連付けられるよう、学習時期や指導計画を工夫する。
第 6 学年	・調べることにに対して、好意的・肯定的に捉えている児童が多い。しかし、調べる方法として、ICT 機器（タブレット端末等）を選ぶ児童が多く、調べ学習の情報源がインターネットに偏ってしまっている。 ・調べたことを発表することについて、好意的・肯定的に捉えている児童が、全体の 6 割を下回っている。	・インターネットや図書を用いた調べ学習以外に、身近な人へのインタビューや、ゲストティーチャーによる講話などを取り入れ、幅広く情報を集めて多面的・多角的に考えていけるようにする。 ・発表する前に、自分の思いが伝わっているか児童同士で聞き合い、助言し合う時間を設け、自信をもたせる。相手に伝えた後、感想をもらうことで自分の学びに対し達成感を味わい、自信をもち、次への意欲につなげる。	・国語科で学習したインタビューの仕方を基に、身近な人に仕事に対する思いや魅力を聞き、インターネットや文献などを活用し、課題を見付けやすくする。 ・他教科でもペアやトリオで自分の考えを伝え合う場や、グループで見合う中で助言し合う機会を設定し、伝える視点を明確にしながら経験を積む。 ・伝統文化の学習について、社会科の日本の歴史や、国語科の古典や狂言などと関連付けられるよう、学習時期や指導計画を工夫する。